

# 大分県大分市バリアフリーマスタープラン(R2.4策定)

人口:478,463人(R2時点) 面積:502.39km<sup>2</sup>

## 基本情報

### <趣旨>

- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて策定。
- ・H30.5に「共生社会ホストタウン」に登録されており、共生社会の実現に向けて心のバリアフリー、ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組んでいる。(R1.8に先導的共生社会ホストタウンに登録された。)
- ・上位計画である「大分市総合計画」、「大分県福祉のまちづくり条例」等を踏まえるとともに、市のまちづくりに関する施策や事業と連携して、大分市におけるバリアフリーのまちづくりの実現に向けた施策を講じるものとする。

### <方針>

- 基本理念 **「だれもが自由にどこへでも豊かさあふれる大分市」**
- 基本方針
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの大分市全域への拡大・多くの人が参画するバリアフリーへの取組
- ・誰もが円滑に移動できるバリアフリー環境の形成強化・わかりやすいバリアフリー環境の形成
- ・市民・事業者・行政の協働による住民参加の取組
- ・継続的なバリアフリー化の進行管理と検証
- ・心のバリアフリーの推進
- ・計画立案から周知へ、バリアフリーの普及・啓発活動の推進

## 作成するにあたって

### <作成過程>

- ・大分市バリアフリー基本構想推進協議会(H31.2実施)から検討され、R2.4に策定。
- ・会議体は、大分市バリアフリー基本構想推進協議会(5回実施)
- ・参考になるような事例がなかったため、**国のガイドラインを熟読した。**
- ・庁内の検討委員会を組織し、**福祉部門や教育部門など関係各部門の意見を取り入れた。**
- ・特定事業の各**施設管理者**を対象として、バリアフリー化に関する整備や点検・研修状況の実態「心のバリアフリー」の取組状況等を、旧バリアフリー基本構想(H26.3策定)に協力をいただいている**障害者団体**に対し、事業実施箇所の良くなった点や問題点等**ヒアリング**を行い、意向を把握した。
- ・市在住18歳以上の市民から無作為抽出した市民を対象に、鉄道駅や歩道のバリアフリー、心のバリアフリーについて**アンケート**を実施し、市民の意向を把握した。

### <作成にあたり苦慮した点>

- ・バリアフリーについては、複数の事業部門にまたがることに加え、国や県の協力も必要であったため、**担当課のみの知識では業務を進めることができなかった。**

- ・委員会を複数回開催するにあたって、**多くの調整が必要**になった。

### <当事者の意見を反映させるために工夫したこと>

- ・実際に当事者の方々と**まち歩き**を行い、まちの問題点について抽出した。

## 移動等円滑化促進地区

- JR大分駅地区 ○JR大在駅地区
- JR鶴崎駅地区 ○JR高城駅地区

### ・選定理由

- ① 1日平均利用者数が3,000人以上の旅客施設を中心とした地区
- ② 市内中心市街地循環バス「大分きゃんバス」の運行エリアのある地区
- ③ JR駅のバリアフリー化推進の対象駅がある地区

## 策定後の動き

- ・自治体として、**バリアフリーの意識向上**が図ることができた。
- ・**協議会を毎年開催**し、状況報告をしている。
- ・バリアフリー法改正の結果、「**教育啓発特定事業**」が位置づけられたため、福祉部門や教育部門と連携し、**今後検討を行う必要があると考えている。**

### <これから作成する市町村へのアドバイス>

- ・構想策定について、様々な障害者団体等の当事者とバリアフリーに造詣の深い学識経験者に協力いただくことが必要になる。
- ・**協議会の人選**は非常に大事。車いす利用者のみ選出等バランスが取れない選出をすると、うまく運用できない。
- ・庁内の実施体制について、**専門の部署に担当者を置いた方が良い。**専門の担当者が各部門と連絡を取り合って作り上げていく体制が良い。